

藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名誉会長
市川市長 大久保博



この度は「藝文いちかわ」第19号が発行されますことを心からお慶び申し上げます。

市川市芸術文化団体協議会の能村会長をはじめ会員の皆様におかれましては、昭和49年の設立以来、大変長きにわたり、本市の芸術文化の普及と発展に多大なるご協力を賜り、まことにありがとうございます。

貴協議会は、芸術文化団体の相互協力と理解を深めるとともに、市民の心にゆとりや豊かさを得られるよう、文化芸術を身近に感じることのできる機会を多く提供いただいております。本市の文化芸術の中心的な役割を担う存在であります。

今年度、市川市では、これまで以上に本市の文化に親しんでいただくことを目的とし「文化イヤー2017」と称したイベントを春・秋の2回開催いたしました。そのうち、秋の祭典においては、市川市芸術文化団体協議会加盟団体のうち9団体もの皆様に、作品展示やステージ発表を通じて、日頃の活動成果をご披露いただきました。

市川市民の意欲的で質の高い芸術文化活動を市内外の人々に広くお披露目でき

たことを嬉しく思いますとともに、行政と市民が一体となって文化芸術を発展させていく、その新たな可能性と未来に感慨無量となるものがございました。そして何より、貴協議会の皆様のご尽力により「文化イヤー2017」が盛況のうちに終えることができましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。目まぐるしく変動する現代、インターネットの普及等により、文化芸術のあり方も変化していると感じます。「いつも新しい流れがある、市川」として、現状に留まることなく文化芸術、それを生かしたまちづくりに取り組んで参りますので、今後とも、皆様のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、市川市芸術文化団体協議会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

をお祈りするとともに、私たちへの一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。ところで、井上ひさしさんに「ご恩返し」「ご恩送り」という言葉がある。「鶴の恩返し」といえば、与ひょうに助けられた一羽の鶴が女房となり、自らの羽根を抜いて美しい反物を織り上げる話。浦島太郎に助けられた亀は、そのお礼に浦島を龍宮城へ連れていく。このように、「恩返し」は親切にしてくれた相手に直接お返しすること。

それに対して、誰かから親切や善意を受けたら、それを相手に返すのではなく、ほかの誰かに渡していくのが「恩送り」である。受けた恩を直接その人に返すのではなく、別の人に送る。そして、それを送られた人はさらに別の人に渡す。そうして恩が回っていくようになると、社会に正の連鎖が起きてくる、という考え方である。

「恩返し」の精神

市川市芸術文化団体協議会会長
能村 研三



先々代の芸文協の会長を務められた内田一考氏が秋の叙勲を授賞された、誠にめでたいことで、私たちにとつても誇りとなることである。氏のこれまでの業績を称えるとともに今後とも一層ご健勝

私たちの芸術文化団体協議会の会の趣旨も、私たちのそれぞれの分野の文化、芸術領域を研鑽しながらより高度なものにしていくことと、それぞれの文化団体相互の協力と理解を深めること共に、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的としている。

よく芸文協に入ったら「どんなメリツトがあるのですか」と聞かれることがある。「自分が得するから」、「あるいは団体として得するから」ということだけでなく、井上ひさしさんが言う「ご恩返し」の精神で、自らの芸術文化を高めながらも、多くの市民に向けた文化芸術でのご恩返しをしていかなければならない。

芸文協は好評二回目となった「天空の文化祭」に加えて、昨年はヤマザキクリエィティブセンターで「ニューイヤーコ

ンサート」を開催し多く市民の方々に楽しんでいただいた。さらに、葛飾八幡宮境内にオープンした全日警ホール（八幡市民会館）で開催された市主催による「文化イヤー」にも、舞台公演と展示の部門で参加させていただいた。

これからも芸文協は市民に親しまれる文化を積極的に発信していきたいと考えている。

市川市花道協会

理事長 倉持理純

市川市花道協会は日本の伝統文化であるいけばなを研究（又は探求）する会員が集まって昭和26年に結成されました。花道協会では日頃からいけばなを見ることよって心の豊かさ、そして安らぎを得られるお手伝いが出来まます事を願っております。また生ける方々の思いも様々ですが、いけばなの世界を伝承できます事をうれしく思います。また「子供コーナー」も大変好評をいただいております。

73回になるいけばな展は平成30年3月2日（金）から5日（月）まで【市川市文化会館】地階大会議室・展示室で開催されます。

その他に会員相互



の親睦を図る目的で新年懇親会を平成30年2月4日両国駅のビューホテルを予定しております。また30年4月にはバス研修を予定しております。総会は30年5月予定。

会員の募集は随時おこなっております。

連絡先 〒272-0035
住 所 市川市新田 3-5-6
市川市花道協会
電 話 047-370-3608

手工芸連盟（現在と私達）

市川市手工芸連盟
理事長 牧野ミサホ

市川市には、手工芸教室が多くあります。個人的に活動されている方々を含めたら、その数を正確に把握する事は非常に難しいかと思われまます。

私共手工芸連盟は、前理事長 益子智仔氏に賛同し、昭和59年に設立以来さまざまな活動をして参りました。

現在は会員数も大幅に増し、多部門の手工芸家達が、今のニーズに合った作品作りを行い、時代の変化と共に進歩してきました。

現在、私共は次のような活動をしております。

1. 中山清華園での会員展示（3月29日～4月2日）

この展示会では、ご近所の人達との交流を深め、作品に興味を持たれた方には、作成プロセスの楽しさを説明しております。

このような事が最近では積極的に

この展示会場でも行うようになり、大変手工芸連盟のアピールに繋がっております。

2. 「第27回手工芸公募展」9月13日（水）～17日（日）

市文化祭の一環として毎年参加させて頂いており、今年で27回を迎えます。若い会員達が率先して色々な意見を出し合い、より良い公募展にしようとして努力しています。

3. 公募展の準備の合間には、子供達への講習会を市川市若宮小学校、市川市立第四中学校等で行い、手工芸を通じて楽しい時間を過ごす喜びを伝える事ができました。

4. 「八幡回遊展」

公募展終了後に参加しています。少しでも手工芸を地域の皆様方にお伝えしようと会員達で智慧を出し合い、話し合いの輪を広げております。「会員作品展とワークショップ」

5. 八幡全日警ホールで（11月21日～27日）行います。



等など、試行錯誤を繰返してはおりますが、今後もさらなる手工芸の普及と発展を目指し、会員一同一丸となって努力を惜しまず頑張る覚悟ですので、芸術文化団体協議会の皆さま方の御指導御鞭撻を文末になりましたが、よろしくお願ひ申し上げます。

市川市写真連盟

市川市写真連盟
会長 松本行雄

市川市写真連盟の設立は平成元年で、来年度は設立30周年を迎えます。設立当時はフィルム写真が主体で、カメラ自体にも存在感がありました。今ではデジタル化が進み、スマホやコンデジでの撮影が進み、誰もが写真を楽しめる時代になっております。最近ではデジタル処理も歓迎される造形も加わり、写真美の激動の時代に入ってきたという感じですが。

市川市写真連盟は設立直後からの写真展開催を通じて、市川市の文化芸術団体として支援を受け、共催することで文化交流の一環として活動しています。



「雪の朝」（じゅんさい池公園）

平成30年度は第30回市川市写真展を6月に「市川市文化会館」で開催致します。日ごろ撮影されているご自慢の写真を出展頂けることを祈念しております。

電話 090-8057-2875

市響65周年 記念演奏会を終えて

市川交響楽団協会

私たち市川交響楽団協会はアマチュア音楽の先駆者として活躍された、故村上正治先生が昭和26年に創設し、昨年で65周年を迎えました。当協会は市川混声合唱団、市川交響楽団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラ、行徳混声合唱団の5つの演奏団体と市響ジュニア育成会を加えた6つの団体で構成しています。毎年それぞれの団体の演奏会を6回ほど開催しています。この協会創立65周年を期して、地域音楽文化振興活動を一層発展させるとともに、従来の暖かいご支援にお応えしたいと考え、今年10月15日に協会の総力を挙げて「合唱の集い」を開催いたしました。

世界三大レクイエムの一つであるヴェルディの「レクイエム」を102名のオーケストラと地域の合唱を愛する方々にもお声がけし、130余名の合唱団、そして、実力ある4人のソリストとの共演で、この壮大なドラマを演じました。

私たち市川交響楽団協会は仲間内の演奏活動だけでなく、市川で文化芸術活動を展開している他の文化団体とのコラボレーションも積極的に行い、ひいては地

域の文化芸術活動の横の広がり大きく貢献したいと考えています。



一年間の合唱活動を 振り返って

市川市合唱連盟

昭和55年に始まった市民合唱祭も今年39回目となり、来年は40回目を迎える

節目の年となります。

4年前より6月の葛飾区との交流事業で2団体の女声合唱団が参加し、著名な先生方から講評して頂き「大変緊張したけど有意義だった！」と喜ばれました。

7月には、約50団体の市民合唱祭の演奏順、40回に向けての連盟からの企画参加を呼びかける調整会議、7月の最終日曜日には、市川市立五中の田中安茂先生の充実した合唱講習会を済ませホッとするのも束の間、9月には合唱祭のチラシ・タイムラグ等を準備し各団へ発送をします。それと同時にプログラム作りに広報スタッフ中心に頭脳を総動員し準備に邁進します。

それ以外に各団体出演の場として、6月葛飾合唱祭、12月ニッケコルトン広場、2月の芸文協の「天空の文化祭」と発表する機会をサポートする為に理事長初め12名のスタッフ一丸となって、これらの活動を支えています。

高齢化、練習場所代の値上がり等、先の展望は明るくありませんが人が集ううとき声があれば一緒に大きな声で歌える喜びを各団体と連携し、芸文協とも交流しながら市川の芸術文化に役立てればと願っています。

文化祭40回を迎えて

市川民話の会
会長 高田和正

市川民話の会を発足させたのは、1978（昭和53）年1月のことです。市内各地に伝わる民話を収集し、保存、継承していくことを目的とした「市川民

話の会」を発足させました。当時の社会教育課長の計らいで、市川市芸文協に加入しました。

会員とともに市内各地をまわり、地元市民からお話をうかがい、それを記録する採話活動を始めました。更に市川市の文化祭行事に加わり「市川の民話のつどい」を開催しました。初めてのこともあり市民会館は溢れるほどの市民が集まりました。文化祭行事は今回で40回を迎えました。市内の民話に関わる市内各地の映像を上映し、会員による語りを披露しました。

民話の会の活動は、聞き書きした民話をまとめ「市川の伝承民話」「市川のむかし話」を刊行しました。今年度は小学校、公民館での語りの会、市川市と共催のイベントに参加してきました。来年度も継続していきます。



「第31回公募・輪の輪展」の開催

輪の輪工芸会

輪の輪工芸会は、工芸を志しながら創作的な美術工芸家の集まりで、展覧会・講習会・研究研修会などを催し、会員相互の知識や理解を深め、親睦と融和を育て地域文化に寄与することを目的として1986年に設立しました。

年1回の展覧会、チャリティ輪の輪会員展を開催してまいりましたが、4年前からは種目に絵画を設け10種目の分野で活動しています。

今年10月4日(水)から9日(月)まで公募・輪の輪展と改名後3回目の「第31回公募・輪の輪展」を市川市文化会館地下展示室で開催しました。市内や近隣都市からの一般作品と会員の作品で、壁面と立体展示を賑わすことができ、当初の予想よりも多くの来場者の方が鑑賞されたことに感謝しております。

今後も老若男女の皆様にもそろって鑑賞に値する、地域に根ざした展覧会を目指して努力していきたくと考えています。

装道礼法きもの学院 千葉県認可連盟市川支部

支部長 工藤 エミ子

創立55周年になる装道礼法きもの学院千葉県認可連盟は、着装と礼儀作法を通して「愛・美・礼・和」の心を全国にひろめている。

平成29年度は成田空港で「和の文化」を紹介し2月と9月に展示のほか浴衣の

着装体験を外国の旅行客に楽しんで頂いた。そのほか市川支部は千葉県連の行事に年間7回参加している。平成30年2月芸術文化協議会の行事、「天空の文化祭」には「帯で結ぶ花々の装い」を展示参加させていただきます。



第35回市川市洋舞踊合同公演に向けて

市川市洋舞踊協会

昭和57年に設立し毎年合同公演を行っています。今回は協会設立35周年記念公演として、有名なミュージカルナンバーを協会員が構成・振付をして、市川交響楽団の協力出演により生演奏による豪華な舞台を演出、多くの方々楽しんでいただける公演を目指しています。

公演は、平成30年3月25日(日)に開催いたします。

- 第1部・第2部は、協会所属6団体(アマチュアバレエアート、クラシックバレエシュエット、ケアリイラニフラグループ、すみれバレエクラシック、三沢モダンバレエジャズダンススタジオ、玲子バレエスクール)による個別作品
- 第3部は、合同作品

ミュージカルメドレー with 市川交響楽団

・ 出演 市川市洋舞踊協会

・ 演奏 市川交響楽団

・ 指揮 世川 望

・ 作品の構成曲
カーテンアップ(オープニング・ファイナーレ)、シカゴ、ウィキッド、マイフェアレディ、サウンドオブミュージック



いちげい 文美さんの 視察研修バスツアー (香取市佐原) 報告

① 香取神宮と参道のお店

文美「参道の落葉が掃き集められ小山になって道しるべのようでした」

一芸「清々しかったですね。お団子の立ち食いも楽しそうだったし」

② 香取市佐原文化協会との交流

一芸「文化会館と公民館が駅前にあつて便利でした」

文美「当会の行事も舞台も展示も一緒に出来るの良いですね」

③ 伊能忠敬記念館

文美「家業を発展させて余生で自分の

好きな事をするって素晴らしい」

一芸「地元を誇る人がいるのは良いね。我々もまだ頑張らなくちゃ」

④ 千代福で小江戸弁当

一芸「庭も建物も素敵でした。美味しかったです」

文美「野菜のおかずの種類が多くて楽しめました」

⑤ 小江戸佐原の町並み散策

文美「町角から侍が出てきそうな魅力的な町でした」

一芸「古い建物がレストランやお店として活きていましたね」

⑥ 酒蔵見学

一芸「地元の産業が観光に活きていますね」

文美「ガイドが上手で、ついお土産を買ってしまいましたよ」



現代水墨・墨彩画

芳香社
藤間 幸子

日本では、雪舟以来水墨画は600年以上の歴史があります。芳香社は墨の濃淡に彩色を施した新しい風を起こそうと、現代の水墨画に挑んでいます。硯で墨を擦り灰かな香りに心が落ち着き和紙に筆を運ぶ。この至ってシンプルな画法に私達は魅了されています。

池田蘭径先生主宰の芳香社は60名の会員で来年は40周年を迎えます。

市川の公共施設を教室とし、日常のあらゆるジャンルを題材とした作品作りに日夜励んでいます。発表の場も国立新美術館・都立美術館・市川文化会館・各公民館、更に芸文協に入会してからは市民会館・アイリンクタワーと広がりました。文化会館の芳香社展ではワークショップを開催し大勢の近隣の方々に水墨画を親しんで頂き地域に根ざした活動を続けております。

是非次回の展示会場にお越しくださいますようお願い申し上げます。



八幡芸能祭を開催しました

市川市芸能協会

昨年4月に、市川市芸能協会が設立され、2年目を迎える今年も、参加団体も9団体に増えました。合同イベントとして「いちかわ芸能祭」を、スタートをしましたが、今年は、より地域に密着したイベントを開催しようとの思いからタイトルも「八幡芸能祭」に代えて開催致しました。当日は台風の影響で朝から大雨の状況でしたが、お客様に恵まれ無事に終わりました。来年は雨が降らないことを会員一同祈っております。改めてメンバーを紹介させて頂き、カラオケの「市川カラオケ連合会」、お

囃子の「八幡囃子保存会」、和太鼓の「八幡下町ゆうづる太鼓」、日本舞踊の「華実会」、新舞踊の「八幡下町踊り同好会」、創作日舞の「千翠会」、かっぱれの「光江流かっぱれ市川道場」、銭太鼓の「はなみずき会」、歌謡舞踊の「花秀会」です。これからも、お互いの芸の良さを認め合い、共に進んでいけるように頑張つてまいります。

大好評で、私たちも大きなエネルギーを頂き、合唱を通して世代を超えた交流の良い機会となっております。



合唱連盟加盟の50団体は、団員の高齢化や練習場の確保など様々な問題のなか、合唱を楽しみ、それぞれ地域での合唱活動を通して地域における文化活動にも一役を担っています。又、平成25年より始められた葛飾区との文化交流事業も順調な展開、合唱を通じた文化交流の出来ることに感謝をし、期待もしています。

芸文協の加盟団体として文化集会など積極的に参加協力し、芸文協加盟の皆さまとのコラボレーションなど広く合唱活動の展開が出来たらと思っています。

市川オペラ振興会

理事長 木村 珠美

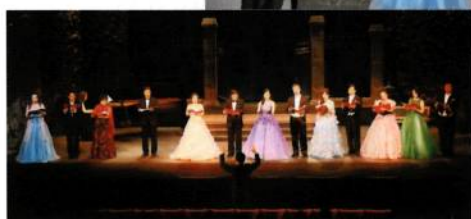
市川オペラ振興会は、市川市に上質なオペラをお届けできたなら、という思いで立ち上げまして、今年37周年を迎えました。また、チレア作曲、オペラ「アドリアーナ・ルクヴール」は、1992年に、日本人初演を果たし、新聞等で素晴らしいご批評を賜りました。そして、2014年に、再演され、公演は大変好評をいただきました。

また、一昨年は、ブッチーニ作曲の第1作品である、「妖精ヴィツリ」を再演いたしました。そして、「ブッチーニ第2作品オペラ「エドガール」は、アジア初演となり、ブッチーニ作曲オペラ「つばめ」は、日本初演となっております。市川オペラ振興会は、37年前にヴェルディ作曲オペラ「椿姫」を初めて上演致しましてから、ブッチーニ作曲「蝶々夫人」「ジャンニスキッキ」、イタリヤより、極上のテノール、アントニオ・デ・パルマ

氏を招聘して、レオンカヴァッロ作曲「道化師」等々、イタリアオペラを中心に公演を重ねておりますが、市川交響楽団と共演によりますオペラ、モーツァルト作曲「魔笛」、日本のオペラ青嶋広志作曲「黒蜥蜴」他等々、上演を重ね好評を博しております。

昨年は、チェコの代表的な作曲家である、ドヴォルザーク作曲オペラ「ルサルカ」が、日本人による初演となり、大変好評の公演となりました。

今年も、芸文協公演ヤマザキニユーイヤークンサートの出演を皮切りとして天空の文化祭、そして、市川オペラ振興会オペラガラ公演、世界の音楽を訪ねて、世界歌の旅を、2日にわたり公演し、ご喜びの声をいただきました皆さまがたより、大変喜びの声をいただきました。



市川市俳句協会

会長 能村研三



11月23日(祝)、第69回市民俳句大会を行いました。会場は新装なった全日警ホール・八幡市民会館。参加者は関東一円から、196名(当日欠席者を含む)。昨年より約3割増しとなりました。また、昨年から始めた「当日句」部門でも106句と多数の投句がありました。午前中は講演会。講師は「出航」主宰の森岡正作先生。午後は俳句大会。成績により以下の表彰が行われました。

市長賞

代掻くや泥を尊きものとして

猪瀬 達朗(船橋市)

議長賞

ばりと焦がし二百十日のパンの耳

柴崎 英子(市川市)

教育長賞

こんと鳴く指の狐よ障子貼る

木村 美翠(松戸市)

能村研三(会長)特選

オカリナの細長き息小鳥来る

三木 千代(市川市)

秋冷や木の階段の黒びかり

菊地 光子(東京都)

秋澄むや大志を描くための空

石田 静(神奈川県)

鱗雲空に千里の風紋あり

能美昌二郎(東京都)

ばりと焦がし二百十日のパンの耳

柴崎 英子(市川市)

当日句・能村研三(会長)特選

神選るころ年輪の楕円形

岩佐 梢(松戸市)

あなたも維持会員に!

市川市芸術文化団体協議会は「文化都市市川」の芸術文化振興の中核を担うべく、昭和49年設立されました。以来市川市の文化向上の原動力となり、市民文化振興の一役を担って参りました。加盟団体間の提携、情報交換、芸術文化振興のための諸事業の実施、特に、アイリンクタワーウエスト45階での開催の「天空の文化祭」、ヤマザキクリエーションセンターでの新春コンサート等、多くの市民の皆様楽しんで頂く事が出来ました。今後の更なる発展の為に、より多く

の方々の御協力を頂き、市民文化の発展に寄与出来ればと願っております。つきましては、加盟団体に所属している、していないに関わらず芸術・文化の振興にご理解、ご協力頂ける方に「個人維持会員」となって頂き、芸文協のサポートをして頂きたくお願い申し上げます。

年会費 1口2000円

(1口以上何口でも可)

市川市芸術文化団体協議会
会長 能村研三

平成29年度維持会員 (平成29年10月現在)

市川市俳句協会

- 能村 研三 (5口)
- 本池美佐子 (5口)
- 町山 公孝 (2口)
- 埴 誠一郎 (1口)
- 藤代 康明 (1口)
- 小林 陽子 (1口)

市川合唱連盟

- 酒井 玄枝 (5口)

市川市洋舞踊協会

- 荒木 洋子 (5口)
- 菅原 玲子 (1口)
- 畑中美代子 (1口)

市川交響楽団協会

- 星 乗昭 (5口)

市川民話の会

- 湯浅 止子 (2口)

市川オペラ振興会

- 木村 珠美 (1口)
- 成澤 香奈 (1口)

市川市芸術文化団体協議会 加盟団体

- | | |
|----------------------|----------|
| 市川市花道協会 | 市川交響楽団協会 |
| 市川民話の会 | 市川市合唱連盟 |
| 市川市洋舞踊協会 | 市川オペラ振興会 |
| 市川市手工芸連盟 | 市川市写真連盟 |
| 市川市俳句協会 | 市川市芸能協会 |
| 輪の輪工芸会 | 芳香社 |
| 装道礼法きもの学院千葉県認可連盟市川支部 | |

編集・発行

市川市芸術文化団体協議会

事務局

〒272-0021 市川市八幡4-9-17 酒井玄枝方

TEL 047-334-7832

HP <http://www.geibun.org>

事務局より

新しい団体も加入し、芸文協も活性化して参りました。後継問題が全団体の課題でもあります。13団体になってうれしい年になりました。大川尚代事務局もお疲れさまでした。酒井玄枝事務局の下、活動していきます。八幡市民会館も新しくなり、我々も気持ちも新たに頑張ります。(広報湯浅)



天空の文化祭

日時:平成30年
2月16日(金)~18日(日)
会場:アイリンクタワー最上階
各団体参加
市川文化の香りを是非味わって下さい。